

夏は夜

～日没後の
外出のすゝめ～

市川市民 納涼花火大会

42回目の今年は8月1日(土)に開催されます。今回の特集では、まだ知られていない大会の見どころを紹介します。

見どころ①

水面に映る花火

江戸川の両岸から楽しむことができますが、本市側では花火とともに川面に映り込む幻想的な光景を見ることができます。

見どころ②

伝統ある「鍵屋」の花火

花火を揚げている「鍵屋」は、日本最古の花火大会両国川開き(現在の隅田川花火大会)で打ち揚げていた由緒ある老舗です。

見どころ③

8号玉の花火

大会で使われる一番大きな花火玉は8号玉で、24cmの玉から直径250m以上の大輪の花が咲きます。これは近隣では最大級です。

有料観覧席情報

栈敷席=180cm×90cm/定員4人/25,000円

ペア席(斜面)=150cm×90cm/定員2人/13,000円

イス席(上段・下段)パイプイス=定員1人/8,000円

自由席=1人5,000円

指定エリア内の自由な場所で観覧

右記2次元コードまたはファミリーマート店頭マルチコピー機や電話(☎0570-08-9999CNプレイガイドコールセンター 午前10時～午後6時)で購入できます。



▲チケット申込サイト(共通)

同日大洲防災公園では、フードやドリンクを提供する多彩なキッチンカーが約20台出店予定です。

日時 8月1日(土)午後7時15分～午後8時20分(予定)

場所 江戸川河川敷(大洲3丁目地先)

最寄り駅 市川会場:JR市川駅(徒歩15分程度)

行徳会場:東京メトロ東西線妙典駅(徒歩20分程度)

詳細 花火大会に関する情報や基本的なルール・マナーに関しては右記2次元コードで確認してください。

☎711-1142同大会実行委員会事務局(観光振興課内)



▲同大会公式Webサイト



豆知識①

花火の進化

伝来間もない江戸時代までは赤褐色1色で強弱をつけていましたが、明治時代には色彩を表現できるようになり、近年ではプログラム制御により秒単位でタイミングを調整して迫力ある演出も可能になりました。今回も大会プログラムの⑤で日本古来の花火「和火」を、⑥でプログラム制御による精密な演出を楽しむことができます。



今年もまた、暑い夏がやってきます。つい冷房の効いた室内にこもりたくなるところですが、日没後なら暑さも和らぎ、比較的過ごしやすくなります。今回は外に出たくなるような夏の夜ならではのイベントを紹介します。 ☎712- 8632広報広聴課



観賞に関する注意

期間中の土・日・祝日は来園の事前申し込みが必要です。



▲申込フォーム

ホタル観賞会

期間中は日没後の自然観察園で生息しているヘイケボタルを観察することができます。

日程 7月11日(土)～7月26日(日)(13日(月)、21日(火)及び荒天時は中止)

時間 午後8時まで入園可能(閉園は午後8時30分、駐車場は午後9時まで)

場所 大町自然観察園(長田谷津)

☎338-1960動植物園課

豆知識② ヘイケボタルとは

観賞会で見られるのは小さな光が素早く明滅することが特徴のヘイケボタル。ゲンジボタルという種類もあります。両者の名前の由来は諸説ありますが、武家の源氏と平家になぞらえて大きい方をゲンジボタル、小さい方をヘイケボタルと名付けたという説が有力で、江戸時代にはこの呼び名であったことが分かっています。



市川ほおずき市 灯籠流し

実を付けた姿が提灯のようだと盆の目印として飾る風習のあるほおずきを販売します。7月18日(土)午後7時から灯籠流しを行います。

日時 7月18日(土) 正午～午後9時

7月19日(日) 午前10時～午後9時

場所 市川ほおずき市 手児奈霊神堂(真間4-5-21)

灯籠流し 真間川(手児奈橋付近)

☎377-1011市川ほおずき市実行委員会事務局(市川商工会議所内)

(観光振興課)

豆知識③

灯籠流しとは

先祖の霊を迎えて、供養し、また送り出す「送り火」のような行事です。舟にお供え物を載せて川や海に流す「精霊流し」が変化したものともいわれています。